



読売歌壇

小池 光選

隠岐の島の爆裂火口を覗き込み北原人の気分味はふ
一宮市 今出 公志

【評】隠岐の島の爆裂火口、それだけで神秘的な感じがする。深々と覗き込んでみた。太古の人間になったような気がした、という歌でスケールが大きい。固有名詞が生きている。亡夫読みし「坂の上の雲」ひもとくにはらり零るる一筋の髪
東京都 山田 玲子

【評】亡夫が愛読した本を開く。一筋の髪の毛がはさまって、はっとした。悲しい歌だが、夫婦の深いつながりが感じられて印象が深い。
つくば市 岩瀬 悦子

手の平に十一粒の葉乗せ一気口へ入れたら夫は
四街道市 須崎 輝男

【評】年輪を重ねると服む薬が増える。食後一粒をエイヤツと口にはらひ込む。たくましい感じがして、なにか痛快だ。
北上市 佐々木清志

吾立たせ「大きくなったなあ」と死の床の父、
横浜市 桃井 恒和

六十五年前
平塚市 村杉 晴次

元日に三日とろろを食むたびに遺書は流れる円谷幸吉
太田市 木戸 健房

生徒らの帰ったあとの教室の窓に見えなかつた立つ木
仙台市 小野寺寿子

閉店の知らせ受けた二十二年短歌ノートを買った店より
和歌山県 助野真美子

栗木 京子選

振り向けばすでに道なし猛吹雪息をととのへ陸橋わたる
青森市 安田 溪子

【評】瞬時に景色が消え失せてしまうような猛吹雪。上句に臨場感がある。細心の注意をしながら陸橋の階段の昇り降りを見ねばならない。歌のしらべからも緊迫感が伝わる。
東京都 青木 公正

右窓に四分間の富士の見ゆ京への赴任こぼれよに
東京都 青木 公正

【評】「右窓」「四分間」とあるので西へ向かう東海道新幹線の車窓であろう。富士山がくつきりと見えると前途を祝福してくれているように感じる。晴れやかな場面である。
対馬市 神宮 斉之

母
伊賀市 福沢 義男

【評】声だけでどんな鳥なのかを聞き分けている母。病床にいる母の研ぎ澄まされた感覚が見事であり、また少し寂しくもある。
福岡市 吉村真由美

人々のトラウマ癒えず建物直すばかりのプチャの復興
宇都宮市 武藤さちこ

【評】一面の霜降る朝もためらはず小二の孫は半ズボン穿く
袋井市 荒野 学

朝まだき眠りの底をゆららつて龍啼くよつに除雪車動く
新発田市 加藤じゅすみん

街路樹の幹に巻かれし赤テープ哀れ古木は伐採を待つ
川西市 片岡 順子

一年も飲み続けけいし物忘れ防止サブリの名問われ出てこず
和歌山市 広崎 恵子

俵 万智選

心から謝罪をしたら金継ぎの器のような友情を得た
富士見市 松本 尚樹

【評】ひびの入った人間関係も、誠意で新しい美しさを獲得できる。割れたり欠けたりしたところを、隠さず金で装飾する金継ぎの比喻が、びつたりだ。
生駒市 高橋 裕樹

日本語のあとを英語で追いかけるレッスンみたいな車内放送
高橋 裕樹

【評】同じ内容なので、あたかもそれが、日本語から英語への翻訳のように聞こえる。なるほど、次からは「レッスン」と思っていて聞こう。思ってもないのに言ってしまったら思っているの言えなかつたり
上尾市 関根 裕治

【評】心と言葉は、必ずしも一致しない。それどころか、逆になってしまったりする。リアルなものが、シンプルな表現で伝わってくる。
千葉市 小金森まき

コーヒーの湯気のなかから現れたひつじが朝をあたためてゆく
千葉市 小金森まき

工場の冷却塔の水蒸気まっ直ぐ上がりけさ冷え緊まる
市原市 井原 茂明

麻雀で要らない牌はどれなのか悩むみたいな部屋の断捨離
山形市 ランゲ

ただの〇、そして△ 夜勤明けにおにぎりひとつさえ選べない
長岡市 三月 とあ

竜踊りの六尺棒の舞のごと庭に広がる早梅ありぬ
柏市 塩田 淳文

誰のものでもなく光るコンビニは東京にある青いかまくら
座間市 藤村 しむ

朝日よりスマホの光まず浴びて見知らぬ町の柴犬を観る
尼崎市 大花 純子

【評】朝一で見るのがスマホという現代。SNS上の誰かの飼ひ犬を眺めつつ、私たち自身の生活はちゃんと見えているのだろうか。他人の手に化粧ゆだねし義母なれど蠟燭の下おもかけ浮かぶ
小浜市 坪田 忠広

【評】納棺前の死に化粧だろう。人の手で化粧されゆく義母を前にして、晴れやかに化粧していた生前の顔が思い出された。かつてとは違う顔を見つめつつ、故人を見送るのだ。ポスターの候補者隠す大雪か大事なものを見よとばかりに
千曲市 米沢 光人

【評】先の総選挙は大雪の時期と重なり、投票困難な有権者も多数現れた。そういう時にこそ私たちは、候補者の表の顔だけで判断せず、その真意を問わねばならないのです。
地吹雪の先に微かに選挙カー連呼する名も聞き取れぬまま
村上市 鈴木 正芳

半壊の家を残せるふるさとの友に尋ねん雪の深さを
金沢市 堅畑 政行

F1のレースのように見極める車は雪の壁ぎりぎりを
南魚沼市 木村 圭

へせんせいの今朝の短歌をよみました教えるの文われをほげます
小美玉市 松山 光

オイとだけ愛犬を呼ぶ祖父なれど目を細くして皿に水波む
金沢市 山本 葉舟

耳とほくなりし愛犬にそとと触れ眠りを覚ます昼餉の刻に
笠間市 小沢まさみ

兄逝きて一年過ぎて今日は晴れたのしいですか歩いてますか
いすみ市 井上 広美

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はもものはな